

平成 23 年度 事業報告書

(平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで)

【実施方針】

- 1 生涯学習関連機関との連携、ネットワークを構築することをおして、市民ニーズを踏まえた事業展開を図る。
- 2 市民参画を進め、市民による市民のための学習活動を支援する。
- 3 財団が有する専門性・柔軟性を生かしながら、効率的・効果的な事業運営を行う。

【事業報告】

生涯学習センターでは、さっぽろ市民カレッジを前年度より講座数を増やして実施し、市民のニーズに応えた。また、大学や学会など専門機関との連携講座や子育て支援の講座を充実させるなど受講者層の幅を広げる努力をした結果、受講者数が初めて 4,500 名を超えた。

青少年科学館では開館 30 周年事業として、ノーベル賞を受けた鈴木章北大名誉教授や小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトリーダーの講演会を開いたり、雪・氷コーナーの展示物を更新したりした結果、来館者 37 万 3 千人、観覧料収入 7,210 万円と、近年では平成 12 年度（38 万 6 千人）に肩を並べる好成績を収めた。

前年度から実施している内部留保資金活用事業として、生涯学習センターでは「さっぽろ市民カレッジ特別講演会」の開催とちえりあホールへの最新のプロジェクター導入を行い、映画会や講演会でより質の高い映像を提供して好評を得ている。青少年科学館では自動券売機の導入と移動天文車の改修を行い、利用者へのサービス向上を図った。

1 学習機会提供事業

(寄附行為第4条第1号に掲げる事業)

(目的) 施設機能を活用し、市内の関係機関およびサークル・団体との連携を図りながら、幅広い年齢層の多様化したニーズに対応した学習機会を提供する。

(支出額) 25,548,325円

(1) さっぽろ市民カレッジ事業

ア さっぽろ市民カレッジ講座

年3期(平成23年4~8月、9~12月、平成24年1~3月)に分け、市民活動系、産業・ビジネス系、文化・教養系の3つの系で、前年度より21講座多い269講座を実施した。

<ご近所先生企画講座>は、9区16カ所に広がった地域会場では40講座中約半数の講座で終了後にサークル化など継続学習が行われ、地域における新たな学びの輪が広がりコミュニティづくりにつながった。

また、専門機関との連携講座(「街並・建築探訪」「札幌の防災土木現場を見る」「これからの日本人に必要な“交渉力”」など)で関係機関のネットワーク化を図ったほか、母親の交流を促したり(「ママ座談会」など)子どもと一緒に参加したり(「子連れヨガ」「赤ちゃんと踊ろう」など)といった子育て支援講座、女性の再就職支援講座(「女目線のコミュニティビジネス」など)の充実を図った。

【実績】さっぽろ市民カレッジ講座内訳 ※括弧内は前年度実績

	センター 企画講座	ちえボラ 企画講座	ご近所先生 企画講座	学社融合 講座	講座数 計	受講者数 計
市民活動系	23 (22)	3 (5)	— (—)	4 (4)	30 (31)	397 (475)
産業・ ビジネス系	23 (23)	2 (—)	— (—)	6 (7)	31 (30)	449 (421)
文化・ 教養系	33 (27)	6 (6)	149 (134) ちえりあ:109 (104) 地域:40(30)	20 (20)	208 (187)	3,691 (3,423)
合計	79 (72)	11 (11)	149 (134)	30 (31)	269 (248)	4,537 (4,319)

受講者数: 4,537名(修了者数3,517名)(前年度 修了者数3,458名)

学位取得者: 「学士号」4名、「修士号」7名、「博士号」5名

(前年度「学士号」13名、「修士号」、7名「博士号」5名)

学位取得者累計: 「学士号」74名、「修士号」47名、「博士号」35名

イ さっぽろ市民カレッジ特別講演会 新規

内部留保資金を活用して、市民カレッジ受講生を対象に、全国で活躍している著名な講師を迎え特別講演会を実施した。

【実績】

講演名・内容	講師
①雪月花の数学 内容：日本人の美意識を数学的に紐解く講演会 (平成 23 年 11 月) 参加者数：258 名	東京工業大学/ サイエンスナビゲーター 桜井 進
②みんなちがってみんないい 内容：金子みすゞの詩の世界観を解説する講演会 終了後にセンターが所蔵する金子みすゞの 半生を描いた映画「みすゞ」を上映 (平成 24 年 3 月) 参加者数：380 名	金子みすゞ記念館館長/ 児童文学作家 矢崎 節夫

(2) 生涯学習関連機関等連携事業

ア インターンシップなどの実施

就業体験の場として学生や生徒の受け入れを実施した。

・大学

北海道大、北海学園大、北星学園大、北海道医療大の学生

・高校・中学校

開成高、藻岩高、旭丘高、豊明高等養護、宮の森中の生徒

【実績】9校 72名（前年度 4校 30名）

イ 各区との連携事業の実施

区役所と連携して区のまちづくりや生涯学習活動の推進を図る事業を実施した。

(a) 手稲史跡巡りバスツアー（受託事業）

手稲区役所の委託を受け、小学生 4～6 年生を対象に手稲区作成の歴史マップを活用して地域の歴史や文化を学ぶバスツアーを実施した。（平成 23 年 7 月）

【実績】24名（前年度 34名（親子対象））

(b) 西区ときわ大学（受託事業）

西区役所の委託を受け、高齢者対象の「西区ときわ大学」を全 14 回のカリキュラムで実施した。実施に当たっては、ご近所先生を講師とし、市民による学び合いを推進した。（平成 23 年 8～10 月）

【実績】44名（前年度 50名）

ウ さっぽろふるさと学の集い

ふるさと学の楽しさを伝えるため、本番開催の前月、「故郷の言葉、故郷と言葉」と題して伊奈かっぺい氏の講演会を開催した。(平成 23 年 8 月)

「集い」当日は「絆を育む地域のチカラ」と題し、市民から公募した映像作品を紹介してビデオ作家の小林はくどう氏がコメントする「ふるさと映像フェスタ」(応募数：21 点)、公募したコミュニティーマップを展示する「まっぷ・マップ・MAP」(応募数：80 点)など多様な取り組みを行った。特にシンポジウム・分科会では交流と情報交換をとおり大学、地域学を实践する団体などのネットワーク化を図った。(平成 23 年 9 月)

【実績】講演会 393 名、シンポジウム・分科会 231 名

エ Spirits of Africa (共催事業) 新規

NPO 法人コンカリーニョと共催で「アフリカ・ジンバブエ」をテーマにコンサート、音楽やアート作品のワークショップ、本の展示などを約 1 カ月に渡って開催した。

他の共催・協力団体：財団法人札幌市青少年女性活動協会、札幌市中央図書館
(平成 23 年 7 月)

【実績】367 名

オ カルチャーフォーラム (受託事業) 新規

日立 IT ユーザ会北海道支部から、日立の IT 製品利用者(企業)が文化的なイベントをとおして親睦と交流を図るフォーラムの講座企画の委託を受け、ご近所先生を講師とした「今日から使える身の回りの数学」と題した講座を実施した。(平成 24 年 1 月)

【実績】28 名

2 人材活用育成事業

(寄附行為第 4 条第 2 号に掲げる事業)

(目的) 市内の関係機関およびサークル・団体と連携を図りながら、市民活動およびまちづくり活動を担う人材を育成する。

(支出額) 1,240,201 円

(1) 学習支援者活用推進事業

市民カレッジの修了者が学んだ経験を生かす機会や場を設け、学習成果の活用を図

った。

ア 市民講師育成（ご近所先生）

「ご近所先生企画講座」の講師となる市民を対象に、講座運営に必要な知識やノウハウの習得を図る研修会を開催した。また、講師間の情報交換とネットワーク化を図るため交流会を開催した。

【実績】182名（前年度 162名）

イ 市民ファシリテーター

「ファシリテーター養成講座」修了者に同講座の補助講師を務めてもらった。

【実績】登録者数 1名（前年度 2名）

ウ ちえりあビデオクルー

映像メディア講座受講生で結成されたグループに、センター事業、地域の活動・行事、自然風景などの映像を撮影・編集してもらい、センターのホームページで発信した。また、映像メディア講座の講師を務めてもらった。

【実績】登録者数 21名（前年度 17名）

エ コーラスボランティア「チェリーズ」

「楽しく歌ってボランティア」講座修了者で結成されたグループに同講座の運営補助を務めてもらった。

【実績】登録者数 23名（前年度 15名）

オ カメラボランティア「ポレフォト」

新規

「やさしさを写真で表現」講座修了者で結成されたグループにロビーコンサートなどの記録写真を撮影してもらった。

【実績】登録者数 11名

(2) 生涯学習関連施設職員研修事業

区民センターや地区センターの職員を対象に、ちらしやPOPづくりなど事業PRに必要な知識やノウハウを学ぶ研修講座を実施した。（平成24年2月）

【実績】13施設 18名（前年度 30名）

(3) 生涯学習ボランティア育成事業

さっぽろ市民カレッジ講座の企画・運営に関わる「ちえりあ学習ボランティア」と視聴覚教育に関わるグループ「オンデマンド」に、活動の場を提供するとともに、機材操作やちらしづくりの研修会を実施し活動を支援した。

【実績】「ちえりあ学習ボランティア」登録者数 36名（前年度 49名）

「オンデマンド」登録者数 9名（前年度 9名）

3 **学習活動支援事業**

（寄附行為第4条第3号に掲げる事業）

（目的） 情報の収集と発信および学習相談などを行って市民の学習活動を支援するとともに、きっかけづくりの機会を提供して、生涯学習の普及啓発を図る。

（支出額） 15,401,022円

（1）メディアプラザ運営事業

メディアプラザを運営し、学習相談、人材・サークルなどの情報提供、図書の閲覧・貸し出し、音楽・映像・語学教材の視聴、インターネットによる情報提供など、市民の学習活動を幅広く支援した。また、札幌市立図書館蔵書の貸し出しサービスを実施した。

【実績】メディアプラザ利用者数 36,614名（前年度 36,420名）

図書蔵書 24,351冊（入荷数 1,354冊）

音楽・映像・語学教材 31,919点（入荷数 141点）

（2）生涯学習情報収集・発信事業

ア 生涯学習センター広報誌「La Chieriatte（ら・ちえりあって）」の発行

センターの機能や事業をPRする広報誌「La Chieriatte（ら・ちえりあって）」を発行した。

【実績】平成23年6、9、12月、平成24年3月 各回15,000部発行

（前年度 年4回 各回15,000部）

イ ちえりあ市民記者クラブ

「La Chieriatte」の誌面づくりをとおして文章の書き方などを実践的に学ぶ講座を実施した。（平成23年2月～8月）

【実績】3名

ウ ホームページの活用

講座やイベントなどの情報を掲載し、センターの事業内容を紹介する動画の配信も行った。

【実績】アクセス数 924,053件（前年度 1,002,469件）

メールマガジン配信回数 48回（前年度 39回）

メールマガジン登録者 2,302名（前年度 2,061名）

エ 生涯学習情報誌の発行

行政機関、大学、民間カルチャーセンターなどで実施している生涯学習関係の講座情報をまとめて市民に提供する学習情報誌を発行した。

【実績】平成23年6月、11月 各回3,000部発行

（前年度 年2回 各回3,000部）

オ 「子どもの学びガイド」の発行

子どもの学習・体験活動に役立ててもらうため、学校休業日に市内公共施設で実施している子どもを対象とした事業の情報をまとめた「子どもの学びガイド」を発行した。

【実績】平成23年7月、9月、12月、平成24年3月 各回93,000部発行

（前年度 年4回 各回93,000部）

（3）生涯学習普及啓発事業

ア ちえりあフェスティバル

ちえりあ全館を使い、生涯学習センター、宮の沢若者活動センター、教育センター、リサイクルプラザの4施設が共同して、子どもから大人まで楽しめる催しを、ちえりあ学習ボランティアの協力も得て2日間にわたり実施し、多くの市民との交流を深めた。参加者は昨年よりも約1,500名増となった。（平成23年8月）

内容は「ライブ書道&おもしろ書道体験」、「ロビーコンサート」、ちえボラ企画の「昔あそびにみんな集まれ」や「おはなし広場」、ご近所先生体験講座の「和紙で絵だより作り」や「テーブルマジック」など。

【実績】14,440名（2日間）（前年度 12,879名（2日間））

イ サークル発表会

ちえりあや市内の区民センターなどで活動している団体間の交流と学習意欲の向上を図るため、舞台部門（音楽や舞踊など）と展示部門（書道や絵画、陶芸など）で学習成果の発表を行った。参加団体は昨年より6団体増加した。（平成23年11月）

【実績】参加者数 56団体687名（前年度 50団体626名）

来場者数 1,206名（3日間）（前年度 1,457名（3日間））

ウ 幼稚園児のお絵かき展

一般社団法人札幌市私立幼稚園連合会の協力のもと、幼稚園児による作品展をロビーで開催した。(平成 23 年 5 月～平成 24 年 2 月 年 10 回)

【実績】参加園数 15 園 (前年度 14 園)

エ ちえりあロビーコンサート

出演団体を公募し、音楽活動の発表の場と市民が気軽に音楽文化に触れる機会を提供した (10 回)。また、新たに宮の沢若者活動センターと連携し若者の活動発表の機会を提供した (5 回)。

【実績】参加団体 15 団体 (応募団体 38 団体) (前年度 10 団体)

来場者数 1,638 名 (前年度 1,200 名)

オ 市民カレッジ作品展

さっぽろ市民カレッジ「さっぽろの水彩画を描こう」の受講生の作品をロビーで展示した。

【実績】出展者 15 名 (前年度 13 名)

カ ロビーのにぎわいプロジェクト 新規

1 階エスカレーター横に新設した「アートウォール」に「Spirits of Africa」のアートワークショップ作品や「ちえりあフェスティバル」での「おもしろ書道」の写真などを展示し、ロビーのにぎわいをもたらした。

【実績】アートウォール展示 3 作品

キ ゆりかごコンサート

前年度より 1 回増やし、札幌交響楽団コンサートマスターの大平まゆみ氏によるバイオリンのコンサート、グループゆの実による絵本と歌のコンサートを開催し、乳幼児連れでも気兼ねなく楽しめる憩いと癒やしのひとときを提供した。(平成 23 年 10 月、平成 24 年 2 月)

【実績】660 名 (前年度 256 組 (1 回))

ク CDコンサート 新規

メディアプラザにある音楽教材と音響機器を活用する CD コンサートを開催した。昼休み時間に無料ということもあり、リピーターが多かった。(平成 23 年 7 月～平成 24 年 3 月)

【実績】156 名 (全 8 回)

ケ できることからはじめよう～東日本大震災チャリティ Act～ (共催事業) 新規

イマジン音楽祭実行委員会と共催で、東日本大震災の復興支援のため、さまざまなジャンルの地元アーティストおよびホール関係者（北劇空間映像美術協会・日本照明家協会北海道支部・日本音響家協会北海道支部）と協力してチャリティコンサートを実施した。（平成 23 年 4 月）

【実績】 400 名、参加アーティスト 26 組 116 名

コ ちえりあ読み語りシアター～言葉と音楽のタペストリー～ 新規

詩の朗読と音楽を併せたコンサートを実施した。出演者は JUNCO&CHEEP ほか。公募で編成した合唱団も出演した。（平成 23 年 11 月）

【実績】 300 名

サ 第 3 回北海道吹奏楽フェスティバル (共催事業)

北海道吹奏楽プロジェクトと共催で、中学・高校の吹奏楽部による演奏（八軒東中・栄町中・札幌平岸高）やプロ（札幌管楽ゾリステン）による合奏レッスンを公開で行い、吹奏楽活動支援のひとつのあり方を示すことができた。（平成 24 年 2 月）

【実績】 1 日目 420 名/2 日目 420 名（前年度 1 日目 300 名/2 日目 310 名）

シ 春休み親子映画会 (共催事業) 新規

公益社団法人土木学会北海道支部と共催で、国土開発の技術者として活躍した「田辺朔郎」の伝記アニメーション映画の上映を講師（土木学会北海道支部）による解説を交えて行い、子どもたちが工学技術について学ぶ機会を提供した。（平成 24 年 3 月）

【実績】 67 名

(4) 共催事業

ア 中学校校内放送コンテスト

札幌市中学校放送教育研究会と共催で、中学校放送局員が制作した番組とアナウンサーのコンテストを開催した。（平成 23 年 7 月）

【実績】 5 校 20 名（前年度 4 校 22 名）

作品数 テレビ番組部門 1 作品（前年度 2 作品）

ラジオ番組部門 1 作品（前年度 1 作品）

イ 中学校校内放送技術講習会

札幌市中学校放送教育研究会と共催で、中学校放送局員の技術向上を図るための講習会を実施した。（平成 23 年 8 月、平成 24 年 1 月）

【実績】8月：8校30名（前年度 11校38名）

1月：6校13名（前年度 8校37名）

ウ 日本映画名作祭 2011

札幌映画サークルと実行委員会を組織し、東京国立近代美術館フィルムセンターの提供により、成瀬巳喜男監督の4作品を2日間上映した。（平成23年10月）

【実績】1,304名（全8回）

上映作品「めし」「おかあさん」「浮雲」「乱れ雲」

（前年度 木下恵介監督4作品1,483名（全8回））

（5）文化振興事業

質の高い芸術・文化に触れる機会の提供と地域文化の活性化を図るためのイベントを開催した。

ア 落語関係事業

公益社団法人落語芸術協会と協力し、落語の鑑賞会などを実施した。

（a）落語学校鑑賞会

西区、手稲区、中央区の小学校7校を無料招待し、子どもに落語に触れてもらう鑑賞会を実施した。（平成23年6月）

【実績】招待校：西園小、手稲東小、二条小、山鼻小、新陵東小、稲穂小、前田小
6公演 1,497名（前年度 6公演1,575名（6校））

（b）ちえりあ特選若手落語会

次世を担う若手落語家の魅力を紹介するとともに、気軽に落語を楽しむ機会を提供した。主な出演者は春風亭柳之介、三遊亭遊馬。（平成23年6月）

【実績】1公演 354名（前年度 1公演323名）

（c）ちえりあ学生寄席

「ちえりあ寄席」のステージを活用し、落語などの芸能文化を学ぶ学生（北海道大学落語研究会）に成果を発表する機会を提供した。（平成23年8月）

【実績】270名（前年度 297名）

（d）ちえりあ寄席

本格的なしつらえで「ちえりあ寄席」を実施した。主な出演者は桂歌丸、三遊亭小遊三、瀧川鯉昇。（平成23年8月）

【実績】4公演 1,572名（前年度 4公演1,578名）

（e）秋のお気軽落語会 新規

落語の世界とその魅力を紹介する講座型の催しを実施した。これにより落語事業の通年化を図った。主な出演者は桂歌若、林家花。（平成23年11月）

【実績】1公演 130名

イ カルチャーナイト（共催事業）

カルチャーナイト実行委員会と共催で、センター所蔵のバレエの映像教材を活用し、講師の解説を交えてバレエの見どころなどを紹介する「バレエシアター」（講師：真下百百子）を開催した。（平成 23 年 7 月）

【実績】139 名（前年度 188 名）

ウ イマジン音楽祭（共催事業）

イマジン音楽祭実行委員会と共催で、小・中・高の児童・生徒が平和をイメージして作った詩（3,000 通の応募）に札幌ゆかりの音楽家が曲を付けて発表するコンサートを実施し、平和教育の推進を図った。また、前年に作られた歌「笑顔の花」を合唱曲にアレンジし、平和都市宣言セレモニー（PMF 大通公園コンサート内）において発表した。（平成 23 年 10 月）

【実績】250 名（前年度 181 名）

エ ちえりあオペラシアター

センター所蔵のオペラの映像教材を活用し、講師（札幌大谷大学・則竹正人教授など）による解説を交えて紹介した。（年 6 回）

【実績】507 名（前年度 6 回 635 名）

主な作品（皇帝ティートの慈悲、ランスへの旅）

オ ちえりあ映画会

センター所蔵の映像教材（16 ミリフィルム・ビデオ・DVD）を用いた映画会を実施した。また、ボランティア団体と協働し視覚障がい者も鑑賞できる映画会とした。なお、夏休み期間などは子ども向け作品を上映した。

【実績】一般向け（4 回 1,046 名）

「ミラーを拭く男」「殞（もがり）の森」ほか

親子（子ども）向け（4 回 827 名）

「トムとジェリー」ほか

計 8 回 1,873 名（前年度 6 回 2,038 名）

4 調査研究事業

(寄附行為第4条第4号に掲げる事業)

(目的) 市民の学習ニーズに対応した生涯学習事業のあり方について調査研究する。

(支出額) 326,550円

(1) 生涯学習に関わる調査研究事業

ア「さっぽろ市民カレッジ」受講生データの活用に関する調査(仮称)

北海道大学高等教育推進機構と連携し、さっぽろ市民カレッジ受講生のデータを活用した生涯学習の状況を調査し、今後の事業展開や成果を地域に生かす活動のあり方について検討した。なお、本研究は2年計画で実施する。

5 生涯学習関連施設管理運営事業

(寄附行為第4条第5号に掲げる事業)

(目的) 札幌市の委託または指定を受けて、次に掲げる施設の管理運営を行う。

(支出額) 813,712,227円

【内訳】(1) 札幌市青少年科学館	421,041,337円
(2) 札幌市生涯学習センター	367,440,958円
(3) 札幌市視聴覚センター	25,229,932円

(1) 札幌市青少年科学館等管理運営事業

ア 展示事業の運営

(a) 常設展示

科学の原理や技術などを「見て」「触れて」「考える」ことができるよう、宇宙、北方圏、電気、力学などのテーマに沿った展示物を管理・整備するとともに、ユニバーサルデザインを念頭に置き、誰にでも安全に利用できる展示方法を工夫した。老朽化した部品などについては、展示物全体の更新計画に基づき整備した。

3月に実施した雪・氷コーナー更新においても、原理が理解し易いよう展示物の形状や解説パネルなどに工夫を凝らし、温度と湿度を自分で設定してオリジナルの雪の結晶を作る疑似体験装置や雪崩のメカニズムを示した展示物などを制作・設置した。

(b) 展示実演など

科学の原理や技術について楽しみながら理解を深められるよう、参加型の展示を行った。

サイエンスショー	熱やエネルギーというテーマを掘り下げて、子どもでも楽しみながら理解を深められるよう、オリジナルの実験道具などを用いて実演を行った。 【実績】668回 14,998名（前年度 681回 14,066名）
テレビスタジオ	クロマキーなどテレビ番組で使われている特殊効果の紹介と、実際に画面に映って体験してもらう参加型の実演を行った。 【実績】平日 2回/日、土日祝日および特別展期間中 3回/日
低温展示室公開	-10℃に設定した部屋の中に雪や氷の性質が分かる展示物を配置し、解説を行った。観測船「しらせ」から寄贈された南極の氷の展示も行った。 【実績】3回/日

(c) 特別企画の開催

・特別展

話題性の高いテーマや特定のテーマについて深く掘り下げた体験型の展示を、小中学生の夏休みや冬休み期間に合わせて開催した。

・夏の特別展「OH!脳!～アタマのなかを探検だ!～」	
概要	「脳」をテーマに、その仕組みや起源などを最新情報をもとにわかりやすく学べるよう、ティラノサウルスの頭骨や動物の標本を中心に、進化と照らし合わせながら脳の起源を巡る展示とした。また、脳の構造や機能、脳と器官の関係を理解してもらうため、体感型展示物を多数配置し、錯視パネルの展示や実演ショーも行った。
実施期間	7月26日～8月21日（27日間）
【実績】	65,231名（前年度「サイエンジャーとエネルギーパーク」（30日間）66,948名）
・冬の特別展「大宇宙展～星空へとびだそう!～」	
概要	宇宙をより身近に感じてもらえるよう、「宇宙の起源」「宇宙を『見る』」「日本の宇宙開発」「道内の宇宙開発」という4つの分野で会場を構成し、体験型の展示物のほか惑星探査機やロケットの実寸大模型などを展示した。また、会場入口には宇宙服での記念撮影ポイントを設け、クイズラリーや実演ショーも行った。
実施期間	12月23日～1月16日（16日間） ※12月27日～1月4日休館
【実績】	26,102名（前年度「サイエンジャーとふしぎな魔術館」（19日間）26,697名）
・春イベント「春だ!わっしょい!科学館まつり」	
概要	幼児や小学生に「科学の楽しさ」を感じてもらえるよう、会場全体をお祭り風にしつらえ、ロボット屋台、空気砲を使った射的屋台、浮沈子や磁石を使った魚釣り屋台、ブラックライトを使ったおみくじ屋台など、科学の不思議が詰まった面白屋台を会場いっぱい並べてにぎわいを演出した。

実施期間	3月24日～4月5日（13日間）
【実績】	34,649名（前年度「新学期だよ！春のサイエンス！！」 （9日間）21,306名）

(d) 講座・教室など

科学への関心・興味を喚起し科学に親しんでもらうための実験、工作教室、講座などを行った。

日曜実験室	<p>子どもを対象に、生活に密着した題材や遊びの要素を取り入れた実験教室を65回実施した。</p> <p>【実績】1,065名（前年度 64回734名）</p> <p>4月 「酸性・アルカリ性ってなあに？ ～レインボー寒天をつくってみよう！～」</p> <p>5月～8月「水にとけると…」</p> <p>9月～12月「見つけよう 隠れた色を！ ～カラフルチョークをつくろう～」</p> <p>1月～3月「白と黒のコマ」</p>
科学館の工作室	<p><小中学生向け></p> <p>科学的動作原理、材料の利用、道具の正しい使い方などの習得とものづくりへの興味の喚起を目的に、80回実施した。</p> <p>【実績】3,930名（前年度 83回4,267名）</p> <p>「オーロラスコープ」ほか26種類</p> <p><小学校高学年以上向け></p> <p>小学校高学年から一般までを対象に、題材の原理の説明に特化した工作会を実施した。</p> <p>【実績】54名（前年度 50名）</p> <p>「手回し充電ラジオをつくろう」ほか</p>
サイエンジャー 科学教室	<p>小中学生を対象に実施した。また特別編として、夜間に大人向けの科学教室も試行的に実施した。</p> <p>【実績】子供向け28回753名（前年度 28回690名）</p> <p>大人向け 5回47名（前年度 4回45名）</p> <p>「どうして3Dに見えるの？」</p> <p>「魔球を解明セヨ！～回転のヒミツをさぐろう！～」</p> <p>「ガラスの科学～ガラス細工BEGINNER～」(大人向け)</p> <p>ほか</p>
親子向け 実験・工作教室	<p>親子で一緒に、科学をより身近で親しみやすく感じてもらうことができる実験・工作教室を実施した。</p> <p>【実績】2回53組107名（前年度 2回34組68名）</p> <p>「動物ロボットをつくろう！」ほか</p>
ちびっこ ワークショップ	<p>主に就学前の子どもとその保護者を対象に、遊びの要素を多く取り入れた、科学に親しみを持ってもらえる事業を実施した。</p> <p>【実績】12日871組1,657名（前年度 515組1,186名）</p> <p>「ワクワクつりゲーム」ほか</p>
工作技術競技会	<p>ストローと紙でグライダーを作って飛ばし、オリジナルルールで得点を競う競技会を実施した。</p> <p>【実績】5日間17,436名（前年度 5日間13,787名）</p>

バックヤード ツアー	普段見ることのできない展示室の裏側を見学する事業を実施した。 【実績】2回46名（前年度 2回31名）
科学クラブ (Sci キッズ) 運営	小中学生を対象に半年毎にクラブ会員を募り、会員向けの実験・工作教室などを開催し、リピーターの拡大に繋げた。 【実績】27回265名（前年度 16回266名）

(e) 学校連携・支援事業など

主に市内小学校・中学校と連携して教室や講座を実施した。また、授業などへの支援や学校活動への支援を行った。

幼児のための 出前サイエンス	幼稚園などへ出向き、遊びの要素を多く取り入れた実験・実演・工作教室を開催した。 【実績】15園1,628名（前年度 13園1,628名） 「サイエンスマジシャンのふしぎなマジック」ほか
中高生による 科学教室	中学・高校生自身の研究成果や製作品などを展示・実演・解説する機会を提供した。（平成23年10月） 【実績】7校78名（前年度 8校79名） （宮の森中、屯田北中、定山溪中、柏中、旭丘高、北高、清田高）
大学生による 科学教室	大学生が講師となって子どもたちに科学教室を実施する機会を提供した。（平成24年2月、3月） 【実績】2校3テーマ71名（前年度 3校5テーマ90名） （千歳科学技術大、北海道工業大）
総合的な学習 の受け入れ	小中高からの依頼により職場見学を受け入れ、学習活動への支援を行った。 【実績】64校1,901名（前年度 57校1,099名）
職業(職場)体験 の受け入れ	小中高からの依頼により職場体験を受け入れ、学習活動への支援を行った。 【実績】14校65名（前年度 11校60名）
実験実習セット の貸し出し	学校では準備が困難な実験・実習セットを貸し出し、授業効果の向上に協力した。 【実績】14校（団体）28セット （前年度 14校（団体）23セット）
実験実習セット の制作	中学校理科教諭と連携し、授業に生かせる補助教材の制作を行った。 【実績】月の満ち欠けキット制作
教員研修	授業やクラブ活動に生かせる観察・実験の紹介および実習を中心とした研修を実施した。 【実績】1回19名（前年度 2回28名）
博物館実習など の受け入れ	大学からの依頼により、学芸員の資格取得を目指した博物館実習生やインターンシップ体験実習の指導を行った。 【実績】博物館実習3校4名、インターンシップ2校2名 （前年度 2校5名）

環境科学展	市民の環境保全への取り組み意識を高めるため、他団体と連携して環境問題と対策技術の現状など参加団体の活動を、子どもたちにも楽しく伝えられるようゲームや実験ショーの形態で実施した。 【実績】2日間 3,584名（前年度 2日間 2,316名）
-------	--

(f) 科学館ボランティアの活用

科学館ボランティアに、実験や工作の手伝いをとおして科学普及の一翼を担ってもらった。

【実績】登録者数 7名（前年度 7名）

イ 天文事業の運営

(a) プラネタリウム投影

プラネタリウムの機能を生かし、天文への理解を促した。

一般投影	星や星座についてわかりやすく解説し、天文学の初歩から最新情報までを学習する機会を提供した。 【実績】1,355回 102,353名 （前年度 1,286回 100,525名）
特別投影	季節あるいは新しい天文的話題をテーマに、対象を絞った投影や通常よりも掘り下げた内容の投影を夜間を中心に行った。 【実績】7回 1,214名（前年度 8回 1,237名） 「137億年 宇宙の旅」、「ハワイの音楽と星空」ほか
オート番組制作	オリジナルの内容を盛り込んだ、一般投影などで上映するオート番組を制作した。 【実績】1本「宇宙～その始まりを求めて～」 （前年度 2本）
イブニング プラネタリウム	日中に行っている一般投影を週末の夜間に行い、普段来館できない人に観覧機会を提供した。 「スターリーテイルズ」など人気のプラネタリウム番組を公開したこともあり、前年度より観覧者数が増加した。 【実績】4回 440名（前年度 3回 282名）
字幕つき プラネタリウム	一般投影に字幕をつけるとともに、星の名前や用語などを視覚的に表現し、だれもがプラネタリウムを楽しむための取り組みを進めた。 【実績】8回 326名（前年度 8回 399名）

(b) 天体観望事業

科学館観望会	プラネタリウム特別投影やイブニングプラネタリウム開催に併せ、科学館駐車場において移動天文車などを使った観望会を行った。 【実績】4回 440名 ※悪天候のため中止8回 （前年度 8回 750名）
--------	---

移動天文台	移動天文車を各所に派遣し、天文台を利用する機会の少ない市民に、自分たちの住む地域で気軽に天体観望する機会を提供した。 【実績】32回 2,808名（前年度45回 4,491名）
札幌市天文台 公開	天体観望の機会を提供し、天文に関する話や質問への対応をとおして、天文に対する興味・関心を高めてもらうとともに天文台の利用促進を図った。 【実績】昼間 304回 2,814名（前年度 301回 2,705名） 夜間 64回 1,227名（前年度 42回 1,477名）
太陽・惑星ほか 観望会	ゴールデンウィークや天文現象が起こる日に合わせて観望会を行った。 【実績】太陽観望 5月 5回 310名（前年度 348名） 土星観望 5月 5回 140名（前年度 375名） 皆既月食 12月10日 150名 （前年度 部分月食 250名、皆既月食 150名） 木星観望 1月 7回 104名

(c) 教室・講座など

天文に関する理解を深めてもらうための講座や教室を実施した。

大人のための 天文教室	初心者向けや中級者向けなど、学習段階に応じた内容の教室を、天体観測機器やプラネタリウムを活用しながら実施した。 【実績】大人の星空教室 2回 51名（前年度 3回 82名） 詳しく学ぶ天文講座 2回 61名（前年度 2回 61名）
親子天文教室	小学生とその保護者を対象に、天文工作（手作り望遠鏡など）と天体観望を組み合わせた講座を実施した。 【実績】夏期 2回 59組 141名（前年度 2回 58組 129名） 冬期 3回 47組 115名（前年度 2回 63組 142名） 「手づくりの天体望遠鏡で星をみよう」ほか
宇宙セミナー	第一線で活躍する専門家を招いて、宇宙・天文についての興味・関心を高めるための講座を実施した。（平成24年2月） 【実績】大人向け 147名（前年度 107名） 「宇宙の歴史と未来をさぐる」 ／北海道大学大学院理学院宇宙理学専攻 羽部 朝男教授

(d) プラネタリウム祭り

プラネタリウム探検、絵本の読み聞かせ、詩の朗読とハーブの弾き語り、札幌芸術の森美術館の学芸員による絵画の解説など、科学以外のジャンルとの融合を盛り込んだ「第6回プラネタリウム祭り」を開催し、多くの市民に楽しんでもらった。（平成23年12月）

【実績】4日間 3,117名（前年度 4日間 3,819名）

(e) 4次元デジタル宇宙シアター

国立天文台が開発した4次元プログラムによって立体視できる宇宙空間の映像

を天文指導員の解説を交えて上映した。(平成 24 年 1 月)

【実績】96 回 5,337 名 (前年度 72 回 3,314 名)

(f) 学校連携・支援事業など

小中学生を対象に、理科授業支援の一環として「プラネタリウム学習投影」を実施した。

【実績】125 回 214 校 17,283 名 (前年度 122 回 211 校 16,516 名)

(g) 天文指導員の養成

学生や一般を対象に定期研修や天文事業への参加機会を提供し、天文普及の一翼を担う人材を養成した。

【実績】登録者数 57 名 (新規 23 名) (前年度登録者数 57 名)

ウ 共催事業

(a) 札幌市中学校 「私たちの科学研究発表会」

札幌市中学校文化連盟と共催で、市内中学校の科学クラブによる研究活動発表会を行った。(平成 23 年 11 月)

【実績】13 校 40 テーマ 367 名 (前年度 13 校 41 テーマ 309 名)

(b) 科学技術週間事業「科学映画会」

公益財団法人日本科学技術振興財団と共催で、科学技術週間に協賛して科学技術映像祭の入選作品を上映した。(平成 23 年 5 月)

【実績】352 名 (前年度 401 名)

(c) 気象講座「新しい気象」

社団法人日本気象学会北海道支部と共催で、身近な気象現象や話題性のあるテーマについて、専門の講師による最新の研究・情報の紹介を交えた講座を実施し、気象学の啓発を図った。(平成 23 年 7 月)

【実績】31 名 (前年度 21 名)

(d) 「宇宙の日 作文・絵画コンテスト」

文部科学省や国立天文台などと共催で、宇宙の日 (9 月 12 日) を記念して、小中学生から「宇宙に関する作文・絵画コンテスト」の作品を募集し、審査・表彰を行った。

【実績】応募数 作文：小学生 68 名・中学生 54 名

絵画：小学生 431 名・中学生 59 名

(前年度 作文：小学生 58 名・中学生 1 名

絵画：小学生 182 名・中学生 16 名)

(e) 札幌市創意くふう作品展 (札幌市創意工夫教育研究会ほか)

市内の小中学生が自由研究などで制作した作品のコンテストで、表彰式を行うとともに、応募作品の展示を行った。

【実績】展示数 89 点（応募数 257 点）（前年度 89 点（応募数 450 点））

(f) 北海道青少年科学技術振興作品展（北海道発明工夫教育連盟ほか）

道内の小中学生が自由研究などで制作した作品のコンテストで、入賞者への表彰式を行うとともに、応募作品の展示を行った。

【実績】展示数 61 点（応募数 127 点）（前年度 60 点（応募数 116 点））

(g) 定山溪自然の村観望会（財団法人札幌市青少年女性活動協会）

前年度まで実施していた道民の森（当別）から定山溪自然の村へ会場を移し、光害の少ない地域において星雲や流星などの淡い天体を見る機会を提供した。（平成 23 年 8 月）

【実績】133 名（前年度 道民の森（3 回）342 名）

(h) さっぽろ星まつり（財団法人札幌市公園緑化協会）

前田森林公園で、天体観望事業を実施した。2 日間の予定が悪天候により 1 日のみの開催となった。（平成 23 年 9 月）

【実績】1 日 400 名（前年度 2 日間 6,000 名）

エ 学習支援・情報発信事業

(a) 学校連携支援事業など

理科授業や総合的学習への支援をはじめ、市内小中学校などと連携した事業を行った。

(b) 天文相談コーナー（星のへや）の運営

初歩的な疑問・質問への対応を行い、代表的な天体望遠鏡、参考図書などを常備し、学習を支援した。

(c) ホームページによる学習支援・情報発信

科学館ホームページ内に科学トピックスやワークシートなどを掲載し、最新情報の提供や学習の支援を行った。また、天文サイト内では、「天文 Q & A コーナー」を開設し、本で調べるのが難しい天文に関する質問への回答を掲載した。

(d) 「科学館ニュース」による情報提供

毎月「科学館ニュース」を制作し、館内に掲示するほか、市内小中学校・幼稚園などへ配布して、最新のイベント情報などを提供した。

(e) 科学技術に関する資料の収集

解説の基礎資料や展示方法改良の参考にするため、関係出版物や他施設の発行人などを収集した。

(f) 天文資料の収集

天文に関する解説資料や出版物を収集するとともに、札幌市天文台および移動天文車で天体写真を撮影し、資料として保存した。

オ 利用者などの声を生かす取り組み

(a) 科学館運営協議会

学校関係者や学識経験者、地域有識者などから成る協議会を開催し、事業の検証結果や助言を運営に生かした。(委員 5 名)

具体的には、開館 30 周年の取り組みが好評を得たことから、開館記念日に無料開放する「感謝デー」を次年度以降も継続して実施することとしたほか、未就学児対象事業の充実を求める意見を受け、幼稚園への出前サイエンスなどの実施回数増に努めた。

(b) 小学校・中学校連絡会

市内小学校および中学校の理科教諭を中心に、科学館のあり方や学校との連携方法などについて広く意見を聴取する場を設け、運営に生かした。(小学校連絡会 13 名、中学校連絡会 14 名)

サイエンスショーについては定時以外にも対応し、学習投影の内容を参加型にするなど、より興味を持ってもらえるよう改善した。また実験実習セットの教材開発に理科教諭の意見を反映した。

(c) 子ども科学会議

市内小学校の児童から、科学館施設や展示物への要望など、広く意見を聴取する場を設け、運営に生かした。(小学生 15 名、科学館職員 5 名)

会議での意見を受けて、トイレに子どもが利用し易い荷物フックを取り付け、キッズコーナーの設置期間を長期化した。

(d) 利用者アンケート

特別展や特別投影など主な事業において、利用者に対しアンケートを実施し、事業に生かした。

要望の多かった授乳室設置については検討を継続している。

カ 施設設備等拡充事業 新規

内部留保資金を活用し、展示物制作や天文車改修などを実施した。

(a) 券売システムの改修

入館時の発券作業を効率化するため自動券売機を 2 台導入し、ゴールデンウィークなど繁忙期の混雑緩和に役立てた。

(b) ホームページの改修

実験教室などの申し込みがホームページでできるようシステムの改修を行った。動画やビデオのアップロードについても各係で作業できるようになり、業務効率が向上した。

(c) 展示物の制作

新たに「雲をつくろう！」の制作を行い、展示内容を充実させた。

(d) 天文車の改修

老朽化した機器のオーバーホールを行い、低下していた機能を回復させた。

キ 青少年科学館開館 30 周年記念事業 新規

開館 30 周年を記念して、利用者への感謝を表すとともに新たな利用者開拓につなげる催しを行った。23 年 2 月に先行実施した小惑星探査機「はやぶさ帰還カプセル特別展示」を皮切りに、講演会や感謝キャンペーンなどを年度をとおして実施した。

(a) 記念誌の発行

主たる利用者である子どもたちに科学館の魅力を伝えるため、施設のガイドブックとして活用できる記念誌『紙でみる科学館』を発行した。

【実績】 1,500 冊発行 市内小中学校および関連施設へ配布

(b) 鈴木章名誉教授講演会

ノーベル賞受賞者から直に話を聞くことをとおして科学をより身近に感じてもらうと、平成 22 年ノーベル化学賞受賞者の鈴木章北海道大学名誉教授の講演会と公開実験を行った。(平成 23 年 8 月)

【実績】 168 名

(c) クロスカップリング実験教室

講演会に先立って、中学校の科学部の生徒を対象に鈴木章名誉教授の研究内容であるクロスカップリング反応を題材にした実験教室を開催した。(平成 23 年 8 月)

【実績】 4 校 24 名

(d) 感謝デー

10 月 4 日の開館日を記念し、市民が利用し易い 10 月 1 日（土）に施設を無料開放し、1 日館長やピエロのショー、スタンプラリーなどさまざまな催しを交えながら多くの市民に楽しんでもらった。

【実績】 3,815 名

(e) 記念映画会

地元厚別区出身の菅原浩志映画監督を招き、講演会と「ほたるの星」の上映会をプラネタリウムで開催した。(平成 23 年 11 月)

【実績】 134 名

(f) 川口淳一郎教授講演会

小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクトマネージャーであった川口淳一郎宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授を招き、プロジェクトの概要や当時の思いなどを内容とする講演会を開催した。(平成 23 年 11 月)

【実績】 185 名

(g) 記念企画展

万華鏡をテーマにした企画展を開催し、普段来館することが無い市民にも足を運んでもらい、光の科学や芸術に触れる機会を提供した。

・「大万華鏡展 2012 ～雪と氷の華麗なる世界～」	
概要	さっぽろ雪まつりに合わせ、雪の結晶をモチーフにした万華鏡を中心に、有名作家の作品を一堂に集めた。会場を「雪と氷の万華鏡コーナー」「体験型万華鏡コーナー」、万華鏡作家の依田夫妻の作品を展示する「依田作品コーナー」、富良野の万華鏡博物館『ふら美』の展示物を配置した「ふら美収蔵品コーナー」、依田夫妻による部屋全体が万華鏡となっている「映華鏡ルーム」、「万華鏡工作」の6つに分けて大小100点以上の万華鏡を展示し、それぞれのコーナーで実際に手に触れ覗いてもらった。
実施期間	2月3日～2月19日（14日間） ※2月6日・13日・14日は休館
【実績】	9,166名

(2) 札幌市生涯学習センター管理運営事業

ア 貸室事業

ホールおよびサークル活動室などを学習活動の場として提供した。

ホールや陶芸室の割引制度を引き続き実施し、吹奏楽や合唱の練習に提供した。

毎月初めに行っている一斉受付においては、手続きを簡略化してサービス向上を図った。

イ 施設の有効活用

展示スペースの無料提供、受験生など学習者への空き室の開放、「CDコンサート」を利用率の高くない映像スタジオで行うなど、施設の有効活用に努めた。

ウ 利用者などの声を生かす取り組み

(a) 生涯学習センター運営協議会

札幌市教育委員会が学識経験者などにより設置した運営協議会に出席し、さまざまな助言を事業の企画や施設の管理運営に生かした。（平成23年7月、10月、平成24年2月）

(b) 利用者アンケートの実施

接遇などについて、メディアプラザ利用者、貸室利用者、講座受講者を対象にアンケート調査を実施した。利用者の満足度は9割を超え概ね高結果であった。

（期間：平成23年12月8日～12月21日、平成24年2月27日～3月11日）

身障者用トイレが利用しづらいとの意見を受け、1階と2階の身障者トイレを改修した。

エ 施設設備の拡充 新規

ホールのプロジェクターが老朽化したため、内部留保資金を活用し最新のプロジェクターとワイド画面对応スクリーンを導入し、映画会、講演会などにおいて質の高い映像の提供が可能となった。また照明操作卓の改修も併せて実施した。

(3) 札幌市視聴覚センター管理運営事業

札幌市からの委託により、視聴覚教育の推進、市民団体や学校などへの学習支援を行うことを目的として、視聴覚センターの管理運営を行った。

ア 学習教材開発事業

学校教育および社会教育関係者に地域に密着した教材の制作を依頼するとともに、教職員の教材制作に助言・指導をするなど、制作活動の支援も行った。

また、全国の視聴覚教材コンクールで3本の作品が入賞・入選した。

【実績】新規制作教材数 8 本

「歴史ある港町・函館市」「屯田兵屋を支える子孫たち」「楽しい陶芸」
「カービングスキーで楽しく滑ろう中級編」「バックキーシリーズ 3 げんきくんのびょうき」「空のげんかん 新千歳空港」「小樽～ガラス工芸～」
「陶彫家 下沢敏也の創作活動《ハルカの土ヲ焼ク》」

平成 23 年度全国自作視聴覚教材コンクール入賞作品

- ・ 小学校部門 優秀賞「おかしのみち帯広（平成 22 年度制作）」
- ・ 社会教育部門 入選「札幌のミニ児童会館（平成 22 年度制作）」
- ・ 社会教育部門 入選「Let's 食育（平成 19 年度制作）」

イ 視聴覚教材貸出事業

市内の学校、町内会やサークルなどに、16 ミリフィルム・ビデオ・DVD 教材の貸し出しを行った。また、ホームページ上で自主制作教材を配信している「デジタルアーカイブス」を継続し、制作教材を追加して充実を図った。

【実績】教材貸出数 5,496 本（前年度 6,322 本）

（内訳：幼稚園 232、小学校 3,365、中学校 815、高校・養護学校 77、
社会教育機関 1,007 本）

視聴覚教材数 10,723 本（入荷数 DVD 142 本）

（内訳：16 ミリ 3,065、VHS 6,504、DVD 1,154 本）

ウ 視聴覚学習機会提供事業

(a) 16 ミリ映写機操作技術講習会

学習活動や地域活動の中での 16 ミリ映画利用促進を目的として 16 ミリ映写機

操作技術講習会を開催した。(年4回 平成23年5月、8月、11月、平成24年2月)

【実績】25名(前年度 4回31名)

(b) ビデオ制作ワークショップ

ビデオ教材を自作する意義を伝え、制作技術の向上を図るため職員が講師となり、教職員を対象に夏休み・冬休み期間中にビデオ制作ワークショップを開催した。(年2回 平成23年8月、平成24年1月)

【実績】58名(8月30名、1月28名)(前年度 2回47名)

6 **収益事業**

(寄附行為第4条第6号に掲げる事業)

(収入額) 19,536,380円 (支出額) 15,650,865円

付帯する事業として、来館者への便益提供を目的とした事業を行った。

(1) 売店・自動販売機事業(札幌市青少年科学館)

(2) レストラン・自動販売機事業(札幌市生涯学習センター)